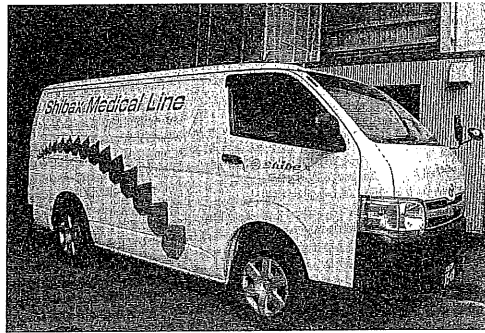


が高いからで、物流は機械化に馴染まない」とした。次に物流政策の動向として、13、17年の第5次総合物流施策大綱のキャッチフレーズ「ムダ、ムリ、ムラ」をなくすということについて、「日本の物流の上質なサービスは世界でも上位だが、それは物流のムダ、ムラをムリが吸収して成り立っている」として、「ムリは長続きしない。どこかで破綻する。それが今現実化している」として、「例えば、物流は魅力的な産業になっていない。当面は労働力が心配だが、それは業界内だけでは解決できない」とした。また、行き過ぎた規制緩和論と規制強化を取り上げ、参入時基準の強化と適正取引・安

## 結晶輸送サービス「シバックス・クリスタル・ライン」で専用車両 柴又運輸

iPS細胞やES細胞等の再生医療の輸送分野に参入を目指す



専用車両を投入

柴又運輸(本社・東京都江戸川区、鈴木正博社長)では、タンパク質等の結晶輸送サービス「シバックス・クリスタル・ライン」で専用車両を投入した。「研究室から研究室までの移動」をコンセプトに、タンパク質結晶を温度を一定に保ち、振動を押さえ、迅速かつ機密を保持しながら輸送するサービスで、創晶(本社・大阪府吹田市、安達宏昭社長)と共同開発した。専用車両の投入により、サービスの認知度を高め、今後、ニーズが見込まれるiPS細胞やES細胞、将来STAP細胞などの再生医療にかかる輸送分野に参入を目指す。

柴又運輸では2010年に金融機関の主催により大阪で開催された異業種交流会(展示会)にブースを出展。タンパク質や医薬候補化合物である有機低分子の結晶化受託事業を展開している創晶の安達社長が同展示会にVISITORとして来場、柴又運輸が東京地区で取り組んでいる化粧品など薬事法関連の物流サービスに注目し

全阻害行為防止について説明し、特に書面化については「荷主・業者とも、自分の会社を守るためのもの」とした。最後に「日本の物流はトラックに偏り過ぎ。モーダルシフトを本気で考えないといけないが、良い手がないのが現実だ」と述べた。

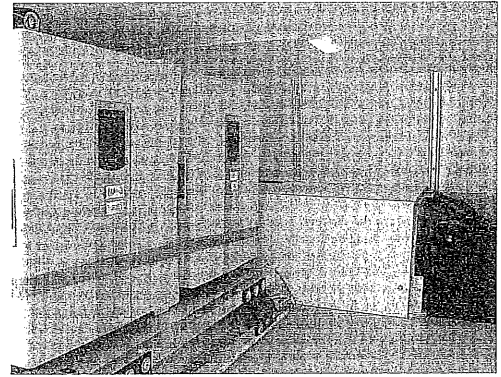
講演の後、燃料サーチャージへの取り組みについて、埼玉協の矢田淑雄専務理事が説明し、埼玉協が制作したDVD「交渉力はいのち」を上映した。また、最近のトラック行政課題について、関東運輸局自動車交通部の齋藤隆貨物課長が説明した。

た。展示会後日、創晶が扱う結晶の輸送に関する相談を受けた柴又運輸では、医療分野の物流への参入を狙っていたことから、12年に業務提携し、製薬会社向けに輸送をスタートさせた。13年7月には創晶の安達社長を柴又運輸の顧問に迎え、プロジェクトチームを結成し、再生医療にかかる輸送サービスの検討を進めている。

創晶では製薬会社などからタンパク質を預かり、それを結晶化して製薬会社に返却している。タンパク質結晶はもろくて壊れやすく、温度管理はもちろん衝撃には十分に配慮しなければならぬ。従来はハンドキャリーで対応していたが、厳密な温度管理が出来ない上に、ヒトが運ぶため、ぶつかったり、転ぶリスクもあった。

そこで結晶を車両で輸送する方法について検討し、各種テスト輸送を行ってきた。今回、結晶輸送サービス「シバックス・クリスタル・ライン」および将来的なiPS細胞、STAP細胞などの輸送需要を見込んだ「シバックス・メデイカル・ライン」の専用車両を1月に大阪営業所(大阪府東大阪市)で投入。

専用車両はトヨタ・レジアスの冷凍バン(マイナス20度対応)に常温室を設置。タンパク質はプラス20℃とプラス4℃の2種類の温度帯での輸送依頼が多いため、常温室に2台のインキペーターを配置した。なお、運転手の休憩中



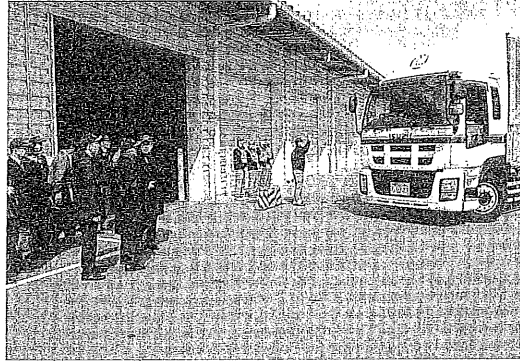
インキュベーターとバッテリーを2台ずつ設置

にエンジン  
を停止させ  
てもインキ  
ュベーター  
を稼働でき  
るよう、バ  
ッテリーを  
2台搭載し  
ている。  
タンパク  
質の温度変  
化の許容範  
囲は「プラ  
スマイナス1度」であるため、ユーピーアールの「温度センサー付きなんつい」を利用して走行中の温度履歴を把握するほか、インキュベーターの温度表示も運転手が目視でチェックを行う。各種対策を施し振動を防止し、また振動計も搭載した。

結晶輸送と同時に後部の冷凍室を使って医薬品等の輸送にも利用できるため、車両の稼働率を向上できる。現在、専用車両は大阪営業所で

日通

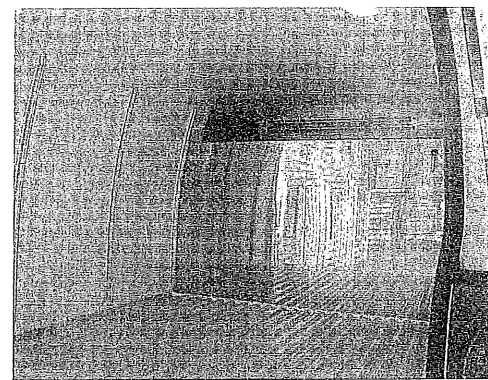
ラオスの公共事業・運輸大臣が研修センターを視察



日本通運(渡邊健二社長)は、外務省の招聘で来日したラオス人民民主共和国のソマー・ポンセナー公共事業・運輸大臣が2月21日、「日通伊豆研修センター」(静岡県伊豆の国市)を訪問したと発表した。

伊豆研修センターは同社の技能教育の中核施設。ポンセナー大臣はトラックやフォークリフトの運転技能研修を見学

1両導入しており、近い将来もう1車両増車予定。製薬会社からの集荷の効率化の観点から、大阪営業所と営業本部(さいたま市北区)の東西2両体制を構築したい考えだ。



マイナス20℃の冷凍輸送も可能

なお、柴又運輸では特定非営利活動法人(NPO)京都SMI(Smart Materials & Innovation)の会員となり、京都SMIの生体試料搬送関連コンソーシアムにも輸送会社として参画。大阪営業所の岡田修営業担当は「細胞を運ぶ容器については固まってきており、輸送段階になれ

し、同社の安全、交通事故防止への取り組み、教育プログラムに関心を示していた(写真)。また、ラオスのトラックドライバーに対する安全教育、技能教育の導入について意見交換を行った。

これに先立つ19日には、ケントン・ヌアンタシン駐日大使とともに日通本社を訪れ、大メコン圏におけるラオスの物流面での重要性について同社幹部と幅広い意見交換を行った。

なお、日通では、JICA(国際協力機構)のPPPインフラ事業として、ラオスの首都ビエンチャン近郊にトラックターミナル・鉄道貨物用コンテナヤード・倉庫・税関などの複合的な物流施設を建設・運営するビエンチャン・ロジスティクスパーク(VLP)事業についての協力準備調査をJICAから受託し、今年1月から調査を開始している。